

「学び」の共有と発信 —基礎教育科目「フランス語」の実践—

清水 まさ志

(宮崎大学 語学教育センター)

1. はじめに—学生の支持

筆者は平成27年度に宮崎大学に着任、現在語学教育センターに所属し、主に基礎教育のフランス語科目(初修外国語A [農学部]・T [工学部]・MN [医学部]・R [地域資源創成学部]・フランス語(再)、総合フランス語I(1)・(2)・(3)、総合フランス語II、総合フランス語III、実践フランス語I、実践フランス語II、人間と愛へのまなざし～フランス文学に学ぶ～[分担])を担当している。本稿は、平成28年度宮崎大学教員教育活動表彰(基礎教育部門)に応じた実践報告であるが、対象となった平成27年度だけでなくその後の教育実践も内容として含んでいることをまずお断りしておく¹⁾。表彰に関して、筆者の授業に対する高い学生の支持が評価につながったのではないかと想像している。現在の大学教育においてアクティブラーニングの必要性が叫ばれているように、学生の主体的な「学び」を実現していくためには、自らの授業内容に対する学生の声に真摯に耳を傾け彼らの意見を取り入れていく必要がある²⁾。次の表1は、筆者が担当するフランス語科目に関する学期末の「学生による授業評価」の数値をまとめたものであるが、全般的に学生の支持が得られているだろう。

次に授業評価に書きこまれた学生のコメントをまとめてみた。これは平成29年度前期の初修外国語科目のもので、取捨選択することなくすべてを並べてある。平成29年度から地域資源創成学部も担当しているので、唯一担当していない教育学部以外のすべてのコメントが揃っている。このコメントを読むと、筆者の授業に対する学生の反応とさらに授業の特徴がわかるだろう。すなわち学生にとって「楽しい」授業である。

平成29年度前期初修外国語 授業評価から全コメント
工学部：楽しかったです・楽しかった・とても楽しい授業でした・おもしろかったです。ありがとうございました・アナ雪の歌の時とても楽しかったです・とても楽しい授業だった・楽しく学べた・フランスについていろいろなことを知ることができたのでよかったです

農学部：少し遠い・楽しくフランス語を学べた！！・後半の教室移動が大変でした・大変楽しくフランス語を学ぶことができました・フランスを知れて大変良かった このままの形を貫き通してほしい・教室がもうちょっと近ければ良かった・フランス語を歌を通して楽しく取り組めたことがとても良いと思った・最高です・フランスパンを食べることができたのがよかつ

表1 平成27・28年度「学生による授業評価」³⁾

科目	期	区分	平成27年度				平成28年度				
			履修数	学生による授業評価(4.0満点)			履修数	学生による授業評価(4.0満点)			
				科目平均	区分平均	全体平均		科目平均	区分平均	全体平均	
フランス語T(工学部)	前期	基礎教育	導入科目初修外国語	51	3.7(48)	3.3	3.3	47	3.64(44)	3.5	3.38
フランス語A(農学部)	前期	基礎教育	導入科目初修外国語	44	3.7(40)			46	3.76(42)		
フランス語NM(医学部)	前期	基礎教育	導入科目初修外国語	12	3.8(12)			17	3.86(15)		
総合フランス語II(二年度)	前期	基礎教育	学士力発展科目	11	3.8(11)			38	3.80(28)	3.39	
実践(検定)フランス語II	前期	基礎教育	学士力発展科目					5	3.95(3)		
総合フランス語I(農学部)	後期	基礎教育	学士力発展科目	33	3.7(31)	3.3	3.3	35	3.82(31)	3.41	3.41
総合フランス語I(工学部)	後期	基礎教育	学士力発展科目	45	3.5(37)			38	3.74(30)		
総合フランス語III(二年度)	後期	基礎教育	学士力発展科目	12	3.8(11)			25	3.77(15)		
実践(検定)フランス語I	後期	基礎教育	学士力発展科目	9	3.5(8)			7			
フランス語(再)	後期	基礎教育	導入科目初修外国語	10	3.8(7)	3.6	3.3				
フランス語E2(再)	後期	基礎教育	導入科目初修外国語					6	3.58(1)	3.51	3.41
灰色・・・選択必修科目				()内回答者数				()内回答者数			

たです・フランス語での会話などを実践的にやっていったので楽しかったです・とても楽しく学べました！・フランスについて感覚的に理解することができたので本当によかった

医学部：楽しかったです・清水先生さいこう！！・すごく楽しくフランス語とふれあうことができて、よかったです・楽しかった

地域資源創成学部：毎回趣向を凝らした授業で、とても楽しく勉強することが出来ました またフランスにも今まで以上に興味を持つことが出来ました・とても授業が楽しみだった また次の講義もとりたいたいと思う・様々なグループワークや発表活動もあり、とても楽しくフランス語の基礎を学ぶことができた・アクティブラーニングで楽しかった・とても楽しく授業を受けられました

また次の表 2 は、平成 29 年度の初修外国語 4 カ国語に関して履修者数を前期と後期で比較したものである。

表 2 平成 29 年度初修外国語前期・後期履修者数

	前期	後期	前期に対する 後期の割合
韓国語	234	87	0.37
中国語	329	133	0.4
ドイツ語	397	80	0.2
フランス語	183	112	0.61
合計	1143	412	0.36

*前期は必修科目初修外国語、選択科目総合Ⅱ・実践Ⅱの履修者、および再履修者を含む。

*後期は選択科目総合Ⅰ・総合Ⅲ・実践Ⅰ・実践Ⅲ（中国語のみ）の履修者、および再履修者を含む。

前期で見るとフランス語は 4 カ国語の中で一番履修数が少ないが、後期になると中国語に次いで履修数が多いことがわかる。前期の履修数の 6 割に当たる履修数は、他の言語に比べて高い。さらに次の表 3 は平成 29 年度後期にフランス語を履修した学生を学部別にまとめたものであるが、理系の工学部・農学部の学生の履修者が多いのも特徴的である。

筆者の授業の特徴である「楽しい」授業は、単にその履修期間内の高い評価につながるだけでなく、専門とあまり関係のない学生でも続けて学習する継続意欲につながるがよくわかるであろう。筆者のねらいは実にここにある。

表 3 平成 29 年度後期フランス語科目学部別履修者数

教育文化学部	1
教育学部	22
地域資源創成学部	15
工学部	35
農学部	39
合計	112

2. 初修外国語の課題と「楽しい」授業

選択必修科目初修外国語に与えられた半期 30 時間ではせいぜい語学的には自己紹介できるようになるのが精一杯である。新しい言語を学ぶには少なすぎるのが現状である。また基礎教育科目は専門の違う多様な学生を対象とし、必修科目の場合、語学学習にあまり熱心でない学生も多い。さらに全国的に見てもフランス語は難しく単位が取りにくいという評判があり、効率よく必修単位を取得したい学生にとって敬遠されがちである。宮崎大学は入学時に初修外国語を選択するため、こうした一般的傾向を反映して前期においてフランス語は 4 言語の中で一番少ない履修数となっていると考えられる。こうした初修外国語、さらにその中でも不利なフランス語を巡る状況の中にあって、授業において学生に新しい言語の学習を継続するよう促すことがますます重要になっている。語学の学習にとって一番大事でかつ難しいことは学習の継続である。いくらテストで良い点をとって良い成績で単位を取得しても、その後学習をやめてしまえば習得した内容はすぐに忘れ去られる。そしてこれまでのデータからみて、学習の継続を生むのは単位取得が「楽な」授業ではなく「楽しい」授業だと考えている。「楽な」だけでは学生は一度は履修しても続けて履修することはない。分かり易い喩えでいえば、レストランに入っておいしくなければ一度は我慢して食べても二度と行く気にはならない。しかしおいしいレストランは何度でも行きたくなるものだ。

筆者なりに「楽しい」授業のためのレシピを絶えず工夫してきた⁴⁾。まず毎回の授業においてフランス語の歌を歌うことにしている。実際歌うことは多くの学生にとって楽しく、語学的には何度も歌詞を聴き歌うことで音に慣れ発音の改善につながる。限られた時間数では文法事項は中途半端にならざるをえないが、ひとつの歌の中にはフランス語のすべての音が含まれ、歌詞の意味がわからなくともそれらの音を感覚的に記

憶する方がフランス語の全体像に早く近づける。次に語学の授業であっても文化的な内容を多く取り入れている。フランスは文化・芸術のイメージが強く、フランス語履修者の最大の履修動機もやはり文化的関心にある。学生にとって異文化を知ることは楽しい。そしてひとつの言語の背景となる異文化を知ることで、自国の言語と文化を客観的に見る契機になるのはいうまでもない。最後に、語学的知識やその運用能力の習得ばかりでなく、学んだ知識をすぐ使ってコミュニケーションに生かすことを重視している。語学の授業が、単にその言語を話す相手とコミュニケーションするために備える場だけでなく、共に学ぶクラスメイトとコミュニケーションする場であり、さらにフランス語学習を通してグローバルなコミュニケーション能力を高める場にすることを目指している⁵⁾。ここから「学び」の共有と発信という発想が生まれる。これはアクティブラーニングのひとつの方法論ととらえることもできるだろう。

3. 共有と発信

共有と発信という考え方は、SNS (Social Networking Service)が発達した現代のコミュニケーションの特徴をなすものである。時と場所の制約を越えて、自らを表現して伝え、様々な人と分かち合う、これが現代的な「楽しい」である。この考え方を授業に応用し、クラス内の「学び」をクラス内だけでなく、その他のクラスと分かち合い、さらに時間と場所の制約を越えて多くの人と分かち合うことを目指す。ひとつのクラスをその他のクラスとつなぎ、そして世界とつなぐ。これを実現するため授業の基本的な柱として、授業内のアクティビティを動画として記録し様々なクラスで見せ合う、動画投稿サイトYoutubeにチャンネルを作り学生の動画を公開する、この二つを行っている⁶⁾。

基本的に教科書に沿って授業を進め、小テストなどで語学的知識を定着させることは語学の授業の質的保証のため欠かせないことはいうまでもないが⁷⁾、時々行うペア会話の発表やフランス語圏の文化に関わるアクティビティをビデオカメラで動画として記録している。クラス内の「学び」を動画にすることで外に持ち出すことが可能になり、同じようにフランス語を学ぶ他のクラスへ発信し共有できるようになる。学生にとって他のクラスの学生の顔を見ることはとても楽しい。そして他のクラスの学生や過去の学生の姿を見る

と自分もやってみようという気持ちにつながる。またアクティブラーニングを目に見えるよう可視化することで、動画が成果となり評価の根拠にできる。さらに動画をインターネット上で公開することでクラスの「学び」がそのままグローバルコミュニケーションにつながり、まったく知らない人が「学び」に参加できるようになる。動画に「いいね」やコメントが付くことでクラス内の「学び」が時間と場所を越え共有される。実際フランス語を使えばフランス語圏の人々が反応してくれる。しかもこの方法は経費がかからない。これから実践例を示すが、注にURLが示してある場合、筆者のYoutubeのチャンネルで実際に動画を見ることができる⁸⁾。ぜひ実際にクラスの「学び」に参加願いたい。

4. 実践例

(1) 「フランス流あいさつをしよう！」

まずは、初修外国語の授業で必ず行う「フランス流あいさつをしよう！」というアクティビティである。四つのシチュエーションに合わせた Bonjour の使い方を実際に試してみるものである。中でもフランスでは友達や家族に会う場合、頬と頬をくっつける「ビズ (bise)」をする。日本社会は接触が一番苦手で、これをフランス語の授業以外でやればセクハラ的になるが、しかしこれを実際にやってみると異文化を体験するだけでなく、クラスの雰囲気良くなり、特に新入生にとってクラスメイトと打ち解ける効果がでることは見逃せない。平成27年度農学部1年生の授業において、筆者が見本として学生と実演した際の情景が動画に収めてある⁹⁾。

(2) 「パリジェンヌになろう！」

もうひとつ「パリジェンヌになろう！」というアクティビティを挙げておく。ファッション雑誌、映画、コマーシャルなどで描かれるパリジェンヌ (パリの女性) のイメージにはひとつの定型がある。そのイメージを授業で説明した後、そのイメージに必ず現れる三つのアイテム (香水 [大人の女性の象徴], 黒いワンピース [パリ・モードの象徴], 赤いバラ [恋愛の象徴]) を身につけてパリジェンヌに変身してみる企画である。黒いワンピースを着て香水をつけた女子学生に男子学生がバラの花を渡すというまるでひとつの儀式は、五感で異文化を体験するだけでなく、子供から大人へと変身する年頃の学生にふさわしいものだと感じている。

(3) 「学部学科対抗歌合戦」

必修科目初修外国語の最後の課題は、学科別に、授業で毎回歌ったフランス語の歌を学科の特色を盛り込んで歌うというものである。フランス語の発音、プレゼンテーション、チームワーク等、総合的なコミュニケーション能力を評価する。そしてクラスで投票し、上位2学科に加点する。またその様子は動画として収録し、各学部1位の動画をすべてのクラスで視聴して投票を行い、総合優勝を決める。総合優勝学科の動画は筆者のYoutubeチャンネルにおいて公開している。平成27年度・平成28年度はいずれも農学部の海洋生物学科が総合優勝したが、平成29年度は地域資源創成学部が総合優勝した。平成26年度に富山大学においてはじめて行ったさいの動画も含めた再生リストを示す¹⁰⁾。曲はいずれも映画「アナと雪の女王」の主題歌Let It Goのフランス語バージョンであるが、学科毎にさまざまな工夫があり毎年驚かされる。

(4) 「学部学科対抗宮崎PR動画合戦」

学士力発展科目総合フランス語の特色は、語学学習に地域学習を取り入れ、地域を世界に発信する試みにある。いわば「地域貢献型」大学としての宮崎大学の方向性を取り入れようとするものである。最後の課題は、学科毎にフランス語で歌った音源に宮崎県と宮崎大学をアピールする映像をつけた動画を作成するものである。フランス語の発音、プレゼンテーション、チームワーク等、総合的なコミュニケーション能力を評価する。そしてクラスで投票し、上位2学科に加点する。また各学部1位の動画をすべてのクラスで視聴して投票を行い、総合優勝を決める。また同意の得られたすべての動画は筆者のYoutubeチャンネルにおいて公開している。動画作成は、アイデアを考え、録音、撮影、編集が伴い、授業外の自主的かつ計画的な作業が必要である。特に動画編集は手間のかかる作業であるが、平成26年度以降の入学生は初めからスマートフォンを使う世代であり、すでに動画作成に慣れた学生もいる。また経験がなくともソフトに慣れれば一通りの編集は誰にでもできる。彼らにとって少しハードルが高いがやってみよう、やればできるものとして、動画作成のグループワークは現代の学生に向いていると感じている。筆者のチャンネルに学生が作成した様々な動画が公開されているので実際に視聴してもらえるよう希望するが、例えば平成27年度の総合優勝工学部の情報システム工学科の動画は、自らの専門を生かした見事な編集である¹¹⁾。また平成29年度の地域資源

創成学部の動画も、地域を発信するという学部の趣旨に合った課題として学生は積極的に取り組んでいるのがわかる。

(5) 「リエージュ大学動画上映会」

またこうした学生が制作した動画を、唯一のフランス語圏の協定校リエージュ大学の日本研究センター主催「日本週間」で上映し、国際交流に生かしている。2016年3月24日と2017年3月30日に行った上映会の再生リストを示す¹²⁾。その際に鈴木思鶴さん(農学部畜産草地学科卒業)の作った動画は、筆者の目指すところのひとつの完成形といえるものである¹³⁾。鈴木さんは宮崎牛を広めたいという気持ちから動画を制作した。このように一人ひとりの学生が自らの専門ともつなげた形でフランス語を使い多くの人に発信していれば良いと考えている。

5. 最後にーフランス語科目の可能性

宮崎県できちんとフランス語が学べる高等教育機関は宮崎大学だけであり、地域の基幹大学として多様な語学学習を保障する意義は大きい。例えば、フランス語は今後フランス語圏が多いアフリカの発展に伴い需要が伸びると予想されるし、また宮崎大学公開講座において平成28年度から筆者が担当するフランス語フランス文化講座においては、每期20名程度の一般受講者がフランス語を学び続け、地域市民の学びの機会となっている。そして専門だけでなく「学ぶ」楽しさを知る学生の育成は、生涯にわたり「学ぶ」力につながり、専門においても発想豊かで創造的な人材の育成につながるのではないだろうか。これこそ大学の基礎教育の役割だと考えられる。

注

- 1) 平成29年度第3回宮崎大学FD/SD研修会(2017年11月20日)において行った「「学ぶ」の共有と発信ー基礎教養科目「フランス語」の実践ー」と題する発表をまとめたものである。
- 2) 大学におけるこうしたアクティブラーニングの試みに関して中野(2017)を参照した。
- 3) 基にしたデータは宮崎大学のホームページにおいて学内限定公開されている。<http://gakumu.of.miyazaki-u.ac.jp/gakumu/generaleducation/257-generaleducation.html>

- 4) 清水 (2013), 清水 (2016) を参照されたい。
- 5) 「協同学習」(岩田, 2011) が参考になった。
- 6) チャンネル名: masashi shimizu https://www.youtube.com/channel/UCihajdz5AJA-8SyjIUOKc1g/videos?disable_polymer=1
- 7) 文献の後に, 教員教育活動表彰の審査の際に提出した, 筆者の授業のタイムスケジュールと評価システムに関する参考資料を付してあるので参照されたい。
- 8) 公開されている動画に関してすべて学生の承諾を得ている
- 9) <https://www.youtube.com/watch?v=OPoqIPs8kVY>
- 10) <https://www.youtube.com/playlist?list=PLoyMggLyFh8GIww5Ou2zW4pBkZd-qEgt>
- 11) <https://www.youtube.com/watch?v=fXUDnC8zrBw>
- 12) 2016年3月24日の再生リスト <https://www.youtube.com/playlist?list=PLoyMggLyFh8Fdlmt7ZdMGIGe3CM09URhE>
2017年3月30日の再生リスト https://www.youtube.com/playlist?list=PLoyMggLyFh8GOMpe_WdBcKdHsobbSkIy7
- 13) <https://www.youtube.com/watch?v=qKzJrMTGnrU>

文献

- 岩田好司 (2011). 「フランス語教育と「協同学習」—「学びの共同体」づくり—, *Revue japonaise de didactique du français*, Vol.6, no 1, *Études didactiques*, 57-72.
- 清水まさ志 (2013). 「教養科目フランス語の課題と方向性」, 『北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部研究紀要』第5号: 291-302.
- 清水まさ志 (2016). 『「ミシェル・ポルナレフ公式がシェアしてコメントした!」—どのようにして地方国立大学においてフランス語教育を推進するか—』, 『宮崎大学教育文化学部紀要』人文科学 第33・34号: 33-46.
- 中野民夫 (2017). 『学び合う場のつくり方—本当の学びのファシリテーション』, 岩波書店.
- 宮崎大学平成27年度前期基礎教育科目「学生による授業評価」アンケート結果: (<http://www.of.miyazaki-u.ac.jp/kiso/jugyou-hyouka/H27/zenki/jugyouhyoukaH27f.htm>), 2018年2月28日.
- 宮崎大学平成27年度後期基礎教育科目「学生による授業評価」アンケート結果: (<http://www.of.miyazaki-u.ac.jp/kiso/jugyou-hyouka/H27/>

<http://www.of.miyazaki-u.ac.jp/kiso/jugyou-hyouka/H28/zenki/jugyouhyoukaH28F.htm>), 2018年2月28日.

宮崎大学平成28年度前期基礎教育科目「学生による授業評価」アンケート結果: (<http://www.of.miyazaki-u.ac.jp/kiso/jugyou-hyouka/H28/kouki/jugyouhyoukaH28B.htm>), 2018年2月28日.

参考資料

1. 初修外国語フランス語 T・A・MN 授業の時間配分と内容
(その他のフランス語授業も大体同じスタイルである)
授業開始前
機材設置 (PC・プロジェクター・インターネット etc.), 授業資料配布, ミニレポート用紙配布. 感想・質問を書かせるミニレポートは, 授業のフィードバックとして欠かせない.
授業開始～5分 (5分)
フランス語で全体挨拶の後, 一人ひとりフランス語であいさつしながら出席を取る. 人数が多くても一人ひとりコンタクトを取ることは有効.
5分～15分 (10分)
全員で課題曲を歌う:
フランス語の音を聞きながら口に出す練習, カタカナが振られた歌詞に慣れてきたら, カタカナなしの色分けされた歌詞で綴りと音の関係を理解しながら歌う. 歌う利点は, 1. まったく語学的知識がなくともカタカナを頼りに音を耳にして口真似できる 2. 毎授業歌うことで綴りと音の関係を覚えやすい 3. 授業に取り組む態度ができる 4. 歌うことで楽しく学べる. 学科毎にこの課題曲を歌うことが期末試験.
15分～75分 (60分)
教科書および配布資料に沿って発音, 文法事項, 会話表現を学ぶ:
一課が終わるごとに確認の小テストを行う. 小テストは8割以上の得点で合格. 一回で合格しない場合は, 合格するまで繰り返す. また課内の会話文はくじ引きでペアに分かれ, 暗記してクラス全員の前で発表する. こうした発表はすべてビデオカメラで記録する. 小テストの合格, 会話発表が単位取得の必須条件であり, これによって語学的知識を質的に保証できると同

時に、単位取得の最低条件を学生に周知させることができる。

75分～90分（15分）

フランスに関わる様々な文化紹介および他学部の授業などを観る：

動画サイト Youtube にある自らのアカウントを使い、音楽その他の動画を観せることで異文化を紹介。息抜きであると同時に学生の授業に対する関心を高められる。また最初に歌を歌い、最後に動画を観ることで、中間の語学学習を短時間にまとめ学生の集中力を失わせない。一方、例えば授業中に撮ったペア会話の動画を確認したり、他学部の授業で撮影した同内容の動画を観たりすることで、クラスのモチベーションを上げフランス語を学ぶ学生全体に一体感を与えることができる。

授業最後にフランス語で全体挨拶を行い終了、ミニレポート用紙の回収。

授業終了後

機材の撤収、学生の質問に対応。小テストで合格していない学生の再テストなど。

2. 評価のシステムについて

小テスト、会話発表、ミニレポート、授業参加態度により70%の得点（良評価）をつける。これにより最低限の語学知識をクラス全員に保証し、また単位を落とす学生を未然に防ぐ。その上で期末テストとして学科毎に課題曲を歌う課題を与える。期末テストを学科毎のグループワークにし、チームワークやプレゼンテーションといったコミュニケーション力を評価する。きちんと発表した場合に最大15%を加算する（優評価）。さらにクラス内の投票により上位2学科にボーナスポイント最大15%を加算する（秀評価）。

この評価システムは、最低限の語学知識を保証しながら単位を落とす学生をまず防ぐことができる。さらに期末テストをグループワークにすることで、学生に連帯感を与え積極性・自主性・創造性を引き出す効果がある。期末テストの発表を終えたときクラスメイトと仲良くなれ、授業の達成感を得ることができる。さらに投票によって選ばれた2学科の学生は、単に秀評価を得た以上にクラスメイトに評価された実感を得て大きな自信につながる。

一方期末テストがグループワークであるとき、個人的努力が評価されにくいマイナス面がある。それに対処するため、授業内の会話発表時も投票を行い上位2ペアにボーナスポイントを与え、異文化理解の実践例

「パリジェンヌになろう！」でパリジェンヌに扮してくれた学生にもボーナスポイントを与えるなど、個人的努力も評価できるようにしている。

初めて習う外国語を半期学んだとしても、語学的には自己紹介程度が精いっぱいであり、少ない学習時間で全員に確実な知識と学習の達成感を与えられるこのシステムは学生アンケートの結果を鑑みて、初修外国語授業に限って言えば有効性があると考えている。